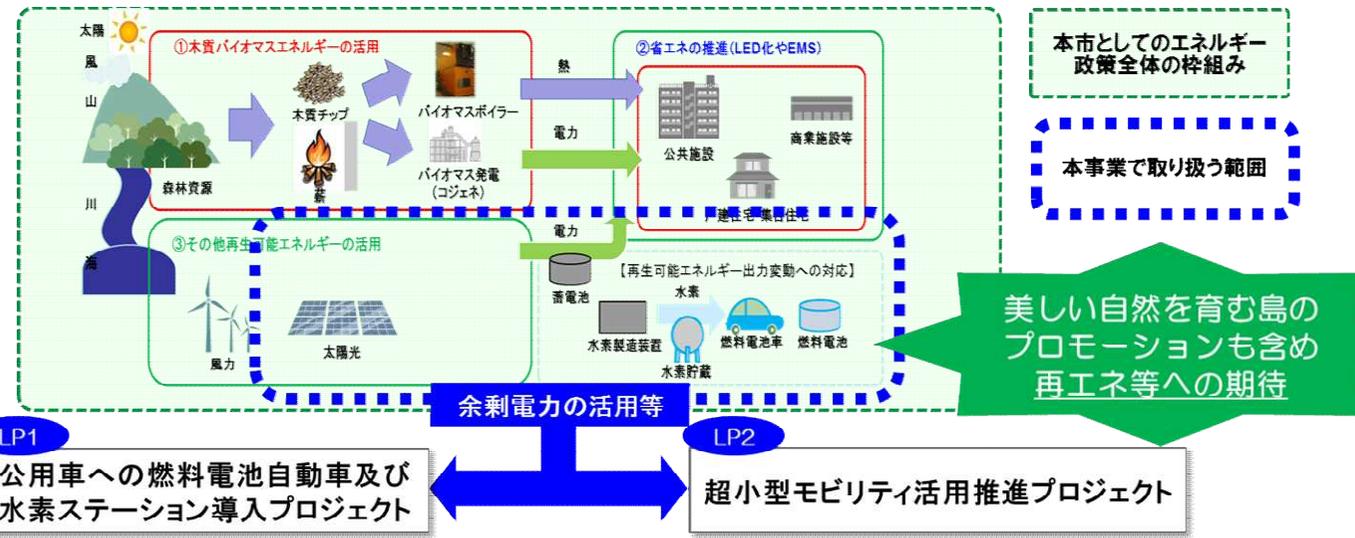


水素を中心とした地産地消エネルギー活用「対馬モデル」構想

～再エネ由来の水素を中心とした低炭素交通モデルプロジェクト～

代表提案者	対馬市
協同提案者	東京工業大学AESセンター

対馬市は、本土との系統連携がない独立電源の島であり、島内消費エネルギーのほとんどを島外からの化石燃料に依存している。一方で、太陽光発電を中心に再生可能エネルギー発電設備の導入が進み、内燃力発電設備の出力を抑制しても、余剰電力が発生する可能性がある。この再エネ由来の余剰電力を有効に活用するため、水電解による水素製造や電気自動車への供給など、低炭素交通の構築を目指す。

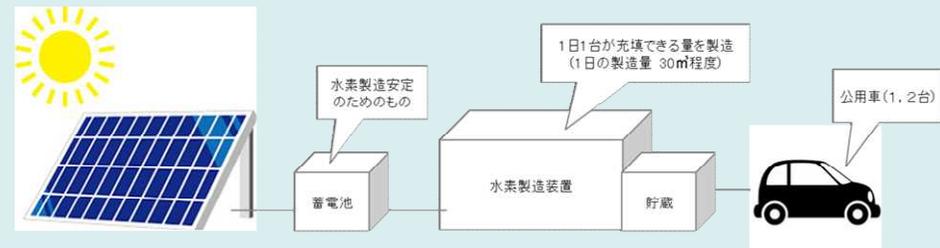


比田勝港ターミナル周辺にステーションを設置し、観光客向けに貸出、上対馬地区の観光スポットを周遊してもらう。

<観光利用のイメージ>

【LP1: 公用車への燃料電池自動車及び水素ステーション導入プロジェクト】

太陽光発電による電気を利用して水を電気分解して水素を製造する小型水素ステーションを導入して、燃料電池自動車に水素を供給する。



【LP2: 超小型モビリティ活用推進プロジェクト】

太陽光発電による電気を超小型モビリティに供給
 <活用イメージ>
 公用車、事業利用、観光・商業地での周遊等

今後の推進のために
 対馬でもできることを市民に示していくことで
 普及啓発及び推進を図っていく。